

## 本時のねらい

・台湾の中学生に向けて、日本の文化を発表し、伝えることができるようになる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・日本の文化を紹介する内容を伝えるために、Google スライドでプレゼンテーションを作成する。  
・より分かりやすく伝えるために、タブレット端末を活用して発音の練習やスライドを工夫修正する。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・カメラ機能 ・Google スライド、ドキュメント、スプレッドシート、ミート ・翻訳ソフト ・動画ソフト ・検索ソフト ・大型モニター

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Warm-up をする。</li> <li>○本時の流れを説明する。</li> <li>○各自、前時の振り返りで記入した課題を確認する。</li> <li>○本時のめあて：台湾の中学生に向けて、日本の文化を伝えられるか確かめよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大型画面にスライドを提示するので、流れや発表のポイント はホワイトボードに記入する。</li> </ul>
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班 2 分以内の発表になるように練習をする。【写真 1】</li> <li>○発音や表情、声の大きさ、速さなどをお互いにチェックする。</li> <li>○文章を工夫したり、スライドを修正したりする。【写真 2】</li> <li>○大型モニターに提示して発表のリハーサルをする。【写真 3】</li> <li>○発表の動画を班で確認して、班で意見交流する。</li> <li>○スライドや文章の長さ、発音や速さを修正してブラッシュアップする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音の不安な単語を検索してタブレットで確認して繰り返し発音練習をしたり、画像を検索して修正する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班で 1 台はスライドを提示、各自は発表の原稿画面を見ながら英文で発表する練習をする</li> <li>○スライドに教師がコメントを記入しておき、修正の際に参考にさせる。</li> <li>○遠隔で行う時と同じように大型モニターの前で実施させる。</li> <li>○教師が撮影し、適宜指導する。</li> <li>○リハーサル動画を Google クラスルームの資料で共有。何度も見直しができるようにする。</li> <li>○遠隔でどのような画面になるかを自分たちでチェックさせる。</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自、振り返りと次の時間への課題を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スプレッドシートを活用し、前時までと本時の振り返りや次の時間への課題が全員で共有できるようにする。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 順番に英語で発表の練習や、修正部分を相談している場面



【写真 2】 より分かりやすく伝えるために、班で相談してスライドを作成・修正している場面



【写真 3】 リハーサルを先生と友だちに聞いてもらい、アドバイスを受けている場面

## 児童生徒の反応や変容

・実践的な活動のため、英語が苦手な生徒もより主体的に授業に参加できた。  
・動画の編集の仕方など、使えるようになった機能をクラスメイトに伝え、自ら発見した機能を友人に伝え、友人からも学ぶ場面が多く見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・“実際に英語を使う体験”を味わうことで、教科の必要性や、学が意欲につながっていくと感じた。  
・苦手意識と不安で ICT を使った授業に踏み込めない気持ちもあったが、使用してみると、生徒も教員も学ぶことが多かった。生徒は有用な使い方をし、自ら学び、新しいスキルを習得していく生徒も多い。また、新しいことにチャレンジすることを楽しんでいる生徒も多かった。